

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_英語Ⅱ	(TCM102)	
講義名 (コード)	TCM_英語Ⅱ	(TCM102)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	福島 ジェニー	時間数	30時間
成績評価教員	福島 ジェニー	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	The objective of this class is to enhance students' English language skills both in spoken and written English that can be useful to communicate effectively in various situation at the hospital and other medical related industries. The lesson is incorporated with practical and methodological approaches to ensure a well balanced learning opportunities : learning through input, learning through
全体の内容と概要	Each lesson includes of vocabulary building, role-play practice base on common hospital scenarios, listening comprehension activities and opportunities for feedback and reflection to ensure effective learning and practical application of English communication skills in hospital settings.
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	This unit, enable the students to acquire knowledge about medical treatment. It incorporates with vocabulary building.	Unit 7: Medical treatment- Keywords: appointment, automated reception machine, examination room, pain/ ache, sore, hurt, ease/ relieve [pain], painkiller, break [bone], bandage, cast, ahead of
2	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal	Unit 7 : Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
3	This unit, enable the students to acquire knowledge about medical checkup and different types of minor health issues. It	Unit 8 : Medical examination - Keywords: feel sick/ nauseous, dizzy, blood, lie down, roll up [one's sleeve], make a fist, apply [pressure] prick, chest, x-ray, take off, urine, medical checkup
4	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal	Unit 8: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
5	This unit, enable the students to acquire knowledge about pharmacy and symptoms. It incorporates with	Unit 9: Pharmacy - Keywords: Pharmacist/ chemist, pharmacy, inflammation, plaster, side effect/ adverse effect, cold medicine, cough drops/ throat lozenge(s), fast-acting, long-lasting, last, take[medicine] over the counter (OTC) drugs, Chinese herbal medicine
6	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal	Unit 9: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
7	This unit, enable the students to acquire knowledge on rehabilitation and alternative treatment. It incorporates with	Unit 10: Rehabilitation: Keywords: Rehabilitation, wrist, palm, thumb, leg/ foot, ankle, knee, kneecap/ patella, joint, posture, warm up, straighten, bend/ stretch
8	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal	Unit 10: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
9	This unit, enable the students to acquire knowledge during calamity. It incorporates with vocabulary building.	Unit 11: Disaster Correspondence - Keywords: earthquake, seismic intensity, aftershocks, tsunami, typhoon, thunder, lightning, tornado/ whirlwind/ twister, forecast, evacuate, evacuation drill, flashlight, calm down, crouch down public transport
10	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal	Unit 11: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
11	This unit, enable the students to acquire knowledge about life at the evacuation center. It incorporates with vocabulary	Unit 12: Life in the evacuation shelter - Keywords: evacuation center/ shelter, safe, injury, supply, supply station/ distributing station, tank truck, bathroom, grabage, burnable, plastic bottle?bottled drink, plastic bag, parking lot/ parking area/ parking space, notice board
12	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal	Unit12: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
13	Skills evaluation	Pre-examination activity and review
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Situational Communication Skills for Hospital Staff
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_表現研究 I		(TCM105)
講義名 (コード)	TCM_表現研究 I _A		(TCM105A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	伊東かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解するために、様々な形式の文章から統合的に必要な情報を読み取れるようになる。
全体的内容と概要	日本語能力試験N1レベルの文字語彙と聴解を学び、日本語学習者として高いレベルの日本語表現理解について学ぶ。
授業時間外の学修	適宜宿題を出す。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	聞き取のメモの仕方	●聞き取れない単語の推測 5w2hを使って分析●全体の意味の理解 能力診断アンケート
2	2-2. 通訳に必要な通訳技術 ●スキミングの仕方の理解●文の分解	●N1の資料をつかった聞き取り練習、場面を想像して、 ●場面のイメージ、メモの取り方、記号の決め方
3	2-2 通訳に必要な通訳技術 ●スキミングの仕方の理解●文の分解	●キーワードのを見つけ方 ●助詞の解説；自動詞と他動詞、をとが
4	助詞の練習	●にとでの用法 ● 助詞全般 練習
5	助詞の練習 2-3. 逐次通訳とは 逐次通訳のプロセス	●はとが の区別、 ●形容詞と形容動詞+名詞、中国語的日本語
6	(2) 訓練の前提となる基礎的な能力	●N1の資料をつかった聞き取り練習 ●を の特別な用法
7	逐次通訳1 2-4. 逐次通訳の前提となる能力強化	★シャドーイングの練習、 ペアで答え合わせの後 グループで結果を討論
8	逐次通訳演習2 ②トランスクリプション	★トランスクリプション プロセスを書き取る。文法の理解があいまいだった、聞いたことを忘れてしまったなど ノートに書き、統計を取る。グループで討論
9	逐次通訳演習2 ②トランスクリプション	★短期的な記憶力を強化する。 ★ラギング
10	逐次通訳演習3 ③ラギング ④リテンション、リプロダクション	★ペア練習、グループ練習、N1聞き取り練習
11	逐次通訳演習4 ⑤パラフレージング ⑥クイックレスポンス	★短期的な記憶力を強化する。 ★ラギング ★リテンション・リプロダクション★パラフレージング ★クイックレスポンス
12	逐次通訳演習5 2-5. ノートテイキングの理論と練習	ノートテイキングの理論と練習、●N1の資料をつかったメモの取り方
13	テストの説明	後期のまとめ テストの練習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医通訳」 一般在団法人日本医療教育在団著 (厚生労働省配布)
参考文献・資料等	日本語基礎文法のppt
備考	進度は変更になることがあります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_文書理解Ⅱ		(TCM108)
講義名 (コード)	TCM_文書理解Ⅱ_A		(TCM108A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	劉琦	時間数	30時間
成績評価教員	劉琦	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解と医療の倫理観を備え、通訳者としての適切な言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材となる。
全体的内容と概要	本講義は「通訳者としての適切な言語運用力とコミュニケーション力を身につける」ことを中心に、文字、語彙、文法は医療通訳の能力を高める。問題と解答を朗読し発音や口語能力の練習も行い、さらに問題を中国語に訳す。
授業時間外の学修	内容が多く、授業時間だけでは全部学習することが難しいと思われるため、できれば一部の練習問題は自宅で完成し、授業では解説を中心に講義を進めるようにする。
履修上の注意事項等	受講生の個人差があると考えられるため、下記授業計画は実情に応じて進度を調整する場合もある。なお、N1を受験して合格した受講生には年度末の成績評価を加算する。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、4 実用書を読むの3 5～3 7
2	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第1 6回～1 8回の練習問題
3	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、4 実用書を読むの3 8～4 0とCheck
4	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第1 9回～2 0回の練習問題と集中トレーニング擬音語・擬態語（1）（2）
5	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、4 実用書を読むの4 1～4 3
6	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第2 1回～2 3回の練習問題
7	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、4 実用書を読むの4 4～4 5とCheck、まとめの問題
8	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第2 4回～2 5回の練習問題と集中トレーニング擬音語・擬態語（3）パソコン関係のことば
9	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、ドラマのシナリオを読むの4 6～4 8
10	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第2 6回～2 8回の練習問題
11	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、ドラマのシナリオを読むの4 9～5 1
12	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第2 9回～3 0回の練習問題と集中トレーニング大学生活で使うことば、ビジネスで使うことば
13	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、ドラマのシナリオを読むの5 2～5 3とCheck
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	試験問題を解説する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『日本語パワードリルN1文字・語彙』、『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』
参考文献・資料等	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
備考	進度は変更になることがあります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_日本事情Ⅱ		(TCM110)
講義名 (コード)	TCM_日本事情Ⅱ		(TCM110)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	浅沼 涉	時間数	30時間
成績評価教員	浅沼 涉	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本での薬販売について学び、法律を順守しながら正しい知識で販売することができるようになる。
全体的内容と概要	登録販売士に必要な知識、特に第4章「薬事関係の法規・制度」第5章「医薬品の適性使用・安全対策」について日本語で理解していく。第1章、第4章、第5章の過去問にも取り組む。
授業時間外の学修	授業内容の復習及び、資格取得に向けて必ず自学自習すること。
履修上の注意事項等	「薬学基礎Ⅱ」の授業と連動しているので、それぞれの授業の関連性を意識して取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医薬品等の分類と取扱いについて理解する	4-II 1)医薬品の定義と範囲
2	医薬品等の分類と取扱いについて理解する	2)法的表示と法的記載 3)医薬部外品・化粧品と食品
3	薬局と医薬品の販売業について理解する	4-III 1)許可の種類と許可行為の範囲
4	薬局と医薬品の販売業について理解する	2)医薬品の販売方法 3)医薬品の情報提供の方法
5	薬局と医薬品の販売業について理解する	4)医薬品の陳列 5)薬局と店舗における掲示 6)医薬品の特定販売
6	薬局と医薬品の販売業について理解する	7)偽造医薬品の流通防止 8)薬局開設者と医薬品の販売業者の遵守事項
7	医薬品の販売に関する法令遵守について理解する	4-IV 1)適正な販売広告 2)不適正な販売方法
8	医薬品の販売に関する法令遵守について理解する	3)行政庁の監視指導と処分 4)苦情相談窓口
9	医薬品の添付文書及び製品表示の記載内容について理解する	5-I 1) 添付文書の読み方 2) 製品表示の読み方
10	医薬品の安全性情報の収集や提供の仕組みについて理解する	3) 安全性情報の提供 4) 安全性情報の活用
11	医薬品の安全対策について理解する	5-II 1 医薬品の副作用情報の収集・評価・措置 2 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告の方法
12	医薬品副作用被害救済制度の仕組みについて理解する	5-III 医薬品の副作用による健康被害の救済 5-IV 一般用医薬品に関する主な安全対策 5-V 医薬品の適正使用のための啓発活動
13	後期の復習	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験テキスト&要点整理」 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	進度は変更になることがあります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TCM_薬学基礎Ⅱ		(TCM112)
講義名 (コード)	TCM_薬学基礎Ⅱ		(TCM112)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	ホイ リキ ニコル	時間数	30時間
成績評価教員	ホイ リキ ニコル	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得する。
全体の内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医薬品の副作用が人体にどのように影響することが理解する。	講義 症状から見た副作用（全身的に現れる副作用）
2	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 精神神経に作用する薬・風邪の症状が起こる仕組み
3	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 精神神経に作用する薬・風邪薬の主な配合成分
4	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 精神神経に作用する薬・風邪薬の副作用と相互作用
5	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 精神神経に作用する薬・熱が起こる仕組み・解熱鎮痛薬の配合成分
6	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 精神神経に作用する薬・眠気を防ぐ薬の働き・主な配合成分
7	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 呼吸器官に作用しり薬・鎮咳去痰薬の働き・主な配合成分
8	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 呼吸器官に作用しり薬・口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）の働き・主な配
9	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 胃に作用する薬の働き・主な配合成分
10	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 腸に作用する薬の働き・主な配合成分
11	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 心臓などの器官や血液に作用する薬 高コレステロール薬の働き・主な配合成分
12	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 心臓などの器官や血液に作用する薬 貧血薬・その他の循環器用薬
13	症状に対処するための薬を学ぶ。	講義 痔疾用薬・婦人薬の働き・主な配合成分
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験テキスト&要点整理」 薬事日報社
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	進度は変更になることがあります。 金曜日1限 ・本講師は、企業・公的機関や大学等の高等教育機関にて、指導を歴任している。本校での実務者教員である。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスICT II		(TCM114)
講義名 (コード)	TCM_ビジネスICT II		(TCM114)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	佐々木隆一	時間数	30時間
成績評価教員	佐々木隆一	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本学の教育理念に基づき、前期に引き続き医療従事者（通訳者）を目標に表計算ソフトを軸としてICT(情報通信技術) スキルの基本を実習を通し主体的に取得する。
全体の内容と概要	Excelの基本：範囲指定&オートフィルタ・表示形式と相対&絶対参照の数式・グラフ機能等について基礎から学習し、さらに演習により学んだ知識を定着・発展させる。
授業時間外の学修	余力がある人は、オプションの問題に積極的に取り組むこと。
履修上の注意事項等	必須課題を期限までに未提出の場合は、当日分が欠席扱いになるため必ず提出すること。 また万一、通信環境の事情によりUSBメモリが必要になる場合は別途指示をする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション Excel概要・基本用語の理解	Excelの基本用語と画面構成/構成要素 表の作成手順を理解する/Excelの表作成手順
2	Excel基本操作 効率的な表の作成	各構成要素の概念・操作方法/セルの操作：移動・結合、罫線・背景色他
3	必須課題1	授業内容に関する課題
4	表の編集操作2 見やすい表が作成できる	見やすい表が作成できる/表の編集操作・ページレイアウト設定
5	集計表の作成1 相対・絶対参照の数式	相対・絶対参照の数式/集計表の作成(例題前半)
6	必須課題2	授業内容に関する課題
7	集計表の作成2 関数のネスト・端数処理	関数のネスト・端数処理/集計表の作成(例題後半)：端数処理の関数
8	集計表の作成3 数式・関数を活用できる	集計表の完成/復習
9	必須課題3	授業内容に関する課題
10	基本的なグラフ作成1 グラフ構成要素の理解	グラフの構成要素 グラフ作成の基本/各構成要素のプロパティ変更方法
11	基本的なグラフ作成2 各構成要素の追加・変更操作	グラフ構成要素の追加と変更操作
12	基本的なグラフ作成3 適切なグラフの作成と編集操作	グラフ作成・変更・編集操作の復習
13	まとめと補足	まとめ&質疑対応等
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	情報利活用 基本演習 Office2021対応
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅡ		(TCM116)
講義名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅡ		(TCM116)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	高橋春子	時間数	30時間
成績評価教員	高橋春子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際化やデジタル化が進む社会で求められる人財となるために、就活や仕事の現場に必要な知識やマナーそしてホスピタリティについて理解し、実践スキルを身につけることを目標とする。
全体の内容と概要	就活や社会人に求められるビジネスマナーやコミュニケーション能力・ホスピタリティ精神について、具体例から学び、自ら考え、ワーク等を取り入れて身につける。
授業時間外の学修	自分の卒業後の進む道について具体的に考え、実践する姿勢を持つこと。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	春期の振り返り	春期に学んだビジネスマナーやホスピタリティ精神について復習する。面接時のマナー等についても振り返る。
2	組織でのビジネスマナー・コミュニケーションを学ぶ①	上司や同僚とコミュニケーションで望まれるマナーについて、言葉遣いや態度等を学び、実践練習する。
3	組織でのビジネスマナー・コミュニケーションを学ぶ②	上司や同僚とコミュニケーションで望まれるマナーについて、言葉遣いや態度等を学び、実践練習する。
4	時間管理について学ぶ	日本で働く際の時間管理や働き方改革についても学ぶ。
5	ビジネス文章について学ぶ	ビジネスEメールや手書き、議事録の書き方等について、実践練習を行い学ぶ。
6	電話のかけ方・受け方を学ぶ	電話に関するビジネスマナーや言葉遣いについて、実践練習を行い学ぶ。
7	来客時のマナーを学ぶ	会議室の準備や、案内、席次等を含めて学ぶ
8	対話やミーティング・報告について学ぶ	対話の場面設定やビジネスでのミーティングの準備や報告までの手順やマナーについて学ぶ。
9	論理的に話すことを学ぶ	事実と自分の解釈の区別や、アンコンシャスバイアス等の理解を通して、仕事の現場で論理的に話すことを学ぶ。
10	面接等でのマナーについて学ぶ②	会社説明会や就職活動での面接でのマナーについて、基本的な面接時の立ち振る舞いや言葉遣い等を学び実践練習を行う。
11	面接等でのマナーについて学ぶ③	会社説明会や就職活動での面接でのマナーについて、基本的な面接時の立ち振る舞いや言葉遣い等を学び実践練習を行う。
12	1年間のまとめと復習	1年間で学んだことのまとめと、翌年の就活や入試に向けての自分のためのスケジュールの確認を行う。
13	前期期末試験前確認	前期期末試験前確認に学んだことを確認する。
14	前期期末試験	前期期末試験
15	前期期末試験 フィードバック	前期期末試験のフィードバック等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「改訂版 留学生・日本で働く人の為のビジネスマナーとルール（特定非営利活動法人 日本語教育研究所編、日本能率協会マネージメントセンター発行ISBN:978-4-8005-9072-5 C3034）」
参考文献・資料等	随時お知らせします。
備考	学生の希望やその他の条件により授業スケジュールを変更する場合がある。 各授業内にリアクションペーパーの提出を求めることがある。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	医療通訳基礎Ⅱ		(TCM124)
講義名 (コード)	TCM_医療通訳基礎Ⅱ		(TCM124)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	4
授業担当者	劉琦、伊東かつみ	時間数	60
成績評価教員	劉琦、伊東かつみ	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解と医療の倫理観を備え、通訳者としての適切な言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材を育成する。
全体の内容と概要	前期では日常会話や文字によるニュースの通訳を中心としたが、後期では音声と映像による通訳の訓練を行う。引き続き4段階に分けて進めていくことにする。(1) 朗読による発音の訓練。(2) ヒヤリングの訓練。(3) 記憶の訓練。(4) 医療関係の内容を中心とした通訳の訓練。また、並行して厚生労働省の教科書も学習する。上記のほか、(5) 年末試験とその解説。(6) 課題3回。
授業時間外の学修	毎日必ずネットやTVで日本語のニュースを見る。
履修上の注意事項等	基本的には録音や録画などをClassroomに配布するので、必ず予習しておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	

	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。
--	---	------	-------------------------------

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	朗読の訓練：正確な発音、流暢さ、適切な音量、大勢の前で落ち着いた態度	厚生労働省の医療通訳資料の朗読および通訳
2	朗読の訓練：正確な発音、流暢さ、適切な音量、大勢の前で落ち着いた態度	厚生労働省の医療通訳資料の朗読および通訳
3	記憶の訓練（中国語）：15秒前後の内容は1度聞いて80%、30秒前後の内容は2度聞いて80%ぐらい記憶できる。	中国語の練習問題、音声の書取
4	記憶の訓練（日本語）：10秒前後の内容は1度聞いて80%、20秒前後の内容は2度聞いて80%ぐらい記憶できる。	日本語の練習問題、音声の書取
5	記憶の訓練（日本語）：10秒前後の内容は1度聞いて80%、20秒前後の内容は2度聞いて80%ぐらい記憶できる。	日本語の練習問題、音声の書取
6	音声による通訳の訓練：録音を聞きながら通訳できる。	日本語→中国語（N2かN1あるいは留学生試験のリスニング問題）
7	音声による通訳の訓練：録音を聞きながら通訳できる。	中国語→日本語（中国語検定試験2級か準1級リスニング問題）
8	音声による通訳の訓練：録音を聞きながら通訳できる。	日本語→中国語（N2かN1あるいは留学生試験のリスニング問題）
9	音声による通訳の訓練：録音を聞きながら通訳できる。	中国語→日本語（中国語検定試験2級か準1級リスニング問題）
10	映像による通訳の訓練：録画を見ながら通訳できる。	テレビ番組やネット映像を見ながら通訳する。日本語→中国語
11	映像による通訳の訓練：録画を見ながら通訳できる。	テレビ番組やネット映像を見ながら通訳する。中国語→日本語
12	映像による通訳の訓練：録画を見ながら通訳できる。	テレビ番組やネット映像を見ながら通訳する。日本語→中国語
13	映像による通訳の訓練：録画を見ながら通訳できる。	テレビ番組やネット映像を見ながら通訳する。中国語→日本語
14	年末テスト	一人ひとり教室に入り試験を受ける。
15	テスト問題の解説	テスト問題の答え合わせと解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布） その他適宜配布
備考	・練習問題（活字、音声、映像など）を配布する ・本講師は、通訳分野で活躍し、企業・公的機関や大学等の高等教育機関にて、指導を歴任している。また出版関係でも活躍し、本校での実務者教員である。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療事務基礎Ⅱ	(TCM122)
講義名 (コード)	TCM_医療事務基礎Ⅱ	(TCM122)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 1年生
対象コース	CM1	単位数 4単位
授業担当者	日本病院管理教育協会	時間数 60時間
成績評価教員	日本病院管理教育協会	講義期間 秋学期
実務者教員	殿岡 綾子	履修区分 必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	授業の目的 (位置づけ) 医療の発展と社会環境の変化に伴い、医事クラーク業務に求められるサービス提供は多岐に亘る。本科では患者中心とするチーム医療において適切なサービス提供に必要な基礎的かつ専門的知識の理解。
全体的内容と概要	医事クラークとして必要な関連法規等から医療行為に伴う基礎的医学一般知識の取得。授業全体的内容と概要 講義中心に、知識理解度を確認するためのテストを行う。
授業時間外の学修	テキスト・プリントの復習を行うこと。
履修上の注意事項等	項目ごとに授業を進める為、欠席すると診療報酬明細書が作成できなくなってしまうので注意する。 <u>電卓</u> を用意すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医療と社会（医療を取り巻く諸問題）	日本の社会と医療制度について説明。医療職員に求められる能力・接遇などを学ぶ。理解度テスト実施。
2	病院の仕組み（部門組織と機能）（1）	病院の組織図と各部署の役割・機能について学ぶ。事務管理に必要な基礎知識を学ぶ。理解度テスト実施。
3	病院の仕組み（部門組織と機能）（2）	病院の種別、病棟の種別・各病床の施設基準について学ぶ。理解度テスト実施。
4	医療保険制度（1）～保険診療の仕組みと医療保険の種類	日本の医療保険制度と種類について学ぶ。医療保険の法別番号・対象者・給付率を理解する。理解度テスト実施。
5	医療保険制度（2）～保険給付とその内容	保険給付の種類と保険外併用療養費について学ぶ。理解度テスト実施。
6	医療保険制度の概要（3）～療養担当規則・公費負担医療	療養担当規則、公費負担医療の種類と内容について学ぶ。理解度テスト実施。
7	医療法概説（1）	医療法とその変遷について学ぶ。特定機能病院などの種別・基準を覚える。理解度テスト実施。
8	医療法概説（2）と復習	病院の仕組み・保険制度等を振り返る。医療法を踏まえた上で、各種関連法規の補足。
9	医師法	医師の業務や義務、施行規則について解説。
10	その他関係法規（薬剤師法等）	介護保険法について説明。理解度テスト実施。
11	尿・血液検査の臨床的意義（検査目的と病態の理解）	代表的な臨床検査項目の検査方法を理解する。臨床検査項目の検査方法と病態・疾病との関連を学ぶ。（略語含む）
12	生体検査・画像診断検査の受診上の留意と検査目的の理解	生体から得られる生理検査の内容と各種画像診断を理解する。（略語含む）
13	薬の知識（薬の種類、剤形と用法、処方せんの見方）	薬の用法・処方せんの見方について学ぶ。理解度テスト実施。
14	診療録と医療情報（1）	診療録の記載方法POS（POMR方式）とSOAP記載について学ぶ。理解度テスト実施。
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	メディカルシステム論、医師事務作業クラーク・医療情報・病歴管理、医学一般、その他必に じプリント配布。
参考文献・資料等	診療報酬請求の実務・演習 ・医科診療報酬点数表 ・その他随時プリント配布
備考	



学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TCM_医療通訳基礎Ⅱ		(TCM124)
講義名 (コード)	TCM_医療通訳基礎ⅡA		(TCM124A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	4単位
授業担当者	伊東かつみ、劉琦	時間数	60時間
成績評価教員	伊東かつみ、劉琦	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解と医療の倫理観を備え、通訳者としての適切な言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材になる。
全体的内容と概要	内容のより難しい文章でも流暢で読りがほぼない。(2) ヒヤリングの訓練8時間。内容のより難しい練習問題を1回聞いて50%、2回聞いて80%くらい理解できる。(3) 記憶の訓練8時間。より難しい日本語で10秒前後の内容は1度聞いて70%、20秒前後の内容は2度聞いて70%くらい記憶できる。(4) 上記3段階の訓練終了後、医療現場や患者関係の会話の通訳訓練28時間。上記のほか、(5) 期末試験4時間、試験問題の解説4時間。(6) 練習3回
授業時間外の学修	3回の課題は成績の一部で必ず丁寧に完成させ提出する。毎日日本語のニュースを聞く。
履修上の注意事項等	通訳の文字資料および音声や動画資料を配布する場合は必ず予習しておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画(劉)		
回	到達目標	授業内容
1	朗読の訓練：正確な発音、流暢さ、適切な音量、大勢の前で落ち着いた態度	日本語の朗読：正確な標準語の発音
2	朗読の訓練：正確な発音、流暢さ、適切な音量、大勢の前で落ち着いた態度	日本語の朗読：正確な標準語の発音
3	記憶の訓練：より難しい内容を10秒前後1度聞いて70%、20秒前後2度聞いて70%くらい記憶できる。	日本語の練習問題、音声の書取
4	記憶の訓練：より難しい内容を10秒前後1度聞いて70%、20秒前後の内容は2度聞いて70%くらい記憶できる。	日本語の練習問題、音声の書取
5	ヒヤリングの訓練：より難しい練習問題を1回聞いて50%、2回聞いて80%くらい理解できる。	N1あるいは留学生試験のリスニング問題
6	ヒヤリングの訓練：より難しい練習問題を1回聞いて50%、2回聞いて80%くらい理解できる。	N1あるいは留学生試験のリスニング問題
7	活字資料を朗読、通訳できる。	医療現場や医学関係の通訳練習問題を朗読して通訳する
8	活字資料を朗読、通訳できる。	医療現場や医学関係の通訳練習問題を朗読して通訳する
9	活字資料を朗読、通訳できる。	医療現場や医学関係の通訳練習問題を朗読して通訳する
10	音声を聞くだけで通訳できる。	医療現場や医学関係の通訳練習問題を耳で聞くだけで通訳する
11	音声を聞くだけで通訳できる。	医療現場や医学関係の通訳練習問題を耳で聞くだけで通訳する
12	音声を聞くだけで通訳できる。	医療現場や医学関係の通訳練習問題を耳で聞くだけで通訳する
13	音声を聞くだけで通訳できる。	医療現場や医学関係の通訳練習問題を耳で聞くだけで通訳する
14	期末試験	秋学期試験
15	追試・フィードバック	試験問題を解説する

4. 本授業科目の授業計画(伊藤かつみ)		
回	到達目標	授業内容
1	聞き取のメモの仕方	●聞き取れない単語の推測 5w2hを使って分析●全体の意味の理解 能力診断アンケート
2	2-2. 通訳に必要な通訳技術 ●スキミングの仕方の理解 ●文の分解	●N1の資料をつかった聞き取り練習、場面を想像して、 ●場面のイメージ、メモの取り方、記号の決め方
3	2-2 通訳に必要な通訳技術 ●スキミングの仕方の理解 ●文の分解	●キーワードの見つけ方 ●助詞の解説；自動詞と他動詞、をとが
4	助詞の練習	●にとでの用法 ● 助詞全般 練習
5	助詞の練習 2-3. 逐次通訳とは 逐次通訳のプロセス	●はとが の区別、 ●形容詞と形容動詞＋名詞、中国語的日本語
6	(2) 訓練の前提となる基礎的な能力	●N1の資料をつかった聞き取り練習 ●を の特別な用法
7	逐次通訳1 2-4. 逐次通訳の前提となる能力強化	★シャドーイングの練習、 ペアで答え合わせの後 グループで結果を討論
8	逐次通訳演習2 ②トランスクリプション	★トランスクリプション プロセスを書き取る。文法の理解があいまいだった、聞いたことを忘れてしまったなど ノートに書き、統計を取る。グループで討論
9	逐次通訳演習2 ②トランスクリプション	★短期的な記憶力を強化する。 ★ラギング
10	逐次通訳演習3 ③ラギング ④リテンション、リプロダクション	★ペア練習、グループ練習、N1聞き取り練習
11	逐次通訳演習4 ⑤パラフレーズ ⑥クイックレスポンス	★短期的な記憶力を強化する。 ★ラギング ★リテンション・リプロダクション★パラフレーズ ★クイックレスポンス
12	逐次通訳演習5 2-5. ノートテイキングの理論と練習	ノートテイキングの理論と練習、●N1の資料をつかったメモの取り方
13	テストの説明	後期のまとめ テストの練習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
参考文献・資料等	日本語基礎文法のppt 練習問題（活字、音声、映像など）を配布する
備考	進度は変更になることがあります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅡ		(TCM118)
講義名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅡ		(TCM118)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	希望する進路に応じてグループごとにインターンシップやオープンキャンパスなどに主体的に参加し、調査発表する。
全体的内容と概要	日本社会を知り、自身の興味と照合させ、自らが目指す業界や職種・企業を決めることを行う。
授業時間外の学修	日本の企業文化を知り、海外との雇用環境の違いを理解しつつ学校卒業後の進路について主体的に調査・研究し具体的な行動をすることができるようにする。
履修上の注意事項等	進捗の状況により変更する場合があります。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	後期授業の方針説明/今後の就職活動/進学活動スケジュールの確認/進路希望調査/ 外国人留学生は特定技能1号(外食)マイページ登録
2	後期の目標進捗発表	前期に立てた自己の目標の進捗を振り返る。進路希望ごとに集まり「あるべき姿」 について話し合う。
3	進学についての理解を深める	3年次編入のスケジュール、応募条件、海外留学への準備スケジュール
4	自己理解	自己理解ツール(エゴグラム)を活用して自身の性格的特徴、得意分野を知る。グ ループ毎に集まり自分の特徴について発表する。
5	生成AIを自己PR作成に活用する。	生成AIを活用して自己PRを作成する。自分の性格的特徴や長所、エピソード(イン ターンシップ、アルバイト、ボランティアほか)をプロンプトに書いて発表。
6	起業について知る	グループごとに企業のメリット、リスクについて調べ発表する。外国人留学生は 「経営・管理」ビザについて調査する。
7	就職活動の選考試験①	面接選考の種類(グループ面接、個人面接)、筆記試験の種類、エントリーシート、自己PR 動画について調べる。代表者が模擬面接を受けて全員で振り返りを行う。
8	業界研究・求人票の見方	企業研究・業界研究をおこない自己の将来の進路選択の一助とする。就職支援アプ リ(マイナビなど)の登録
9	履歴書作成①	学校指定履歴書用紙に記入する。パソコンを使用してもよい。学歴・職歴欄の作 成。添え状(送付状)の書き方・(職歴がある場合)職務経歴書の書き方
10	履歴書作成②	自己PR文作成・志望動機の作成
11	就職活動の選考試験③	グループディスカッション対策。金魚鉢方式により代表者がグループディスカッ ションを行い、全員で振り返りを行う。
12	外国人留学生のための在留資格ガイ ダンス/就活キックオフ	外国人留学生のための在留資格、就職活動の進め方/就活早期化に伴う注意点・総括
13	キャリアガイダンス	就職活動早期化に伴う自己管理、スケジュール管理を行う。キャリアデザイン授業 の総復習。
14	期末試験	履歴書作成
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	外国人留学生のための就職ガイド(日本学生支援機構)
備考	